

2026年（令和8年）10月入学

2027年（令和9年）4月入学

学生募集要項

October 2026/April 2027 Admission Information

大学院博士後期課程

共同サステイナビリティ研究専攻

Joint Doctoral Program for Sustainability Research

東京外国語大学

Tokyo University of Foreign Studies (TUFS)
Graduate School of Global Studies

東京農工大学

Tokyo University of Agriculture and Technology (TUAT)
Graduate School of Engineering

電気通信大学

The University of Electro-Communications (UEC)
Graduate School of Informatics and Engineering

目 次

• 入学者選抜の概要	1
• 本専攻が求める学生像（アドミッション・ポリシー）	1
1. 募集人員	2
2. 出願資格	2
3. 出願手続	3
4. 入学者選抜方法	5
5. 入学手続	6
6. 海外在住者の受験について	6
7. 社会人の授業及び研究指導について	6
8. 障害等のある入学志願者の事前相談	6
9. 個人情報の利用について	7
10. 注意事項等	7
11. 指導教員について	8
• Admission Information (ENGLISH)	12

添付書類

- (1) 入学志願票 (2) あて名票 (3) 受験票・写真票 (4) 出願資格認定申請書
(5) 出願資格認定審査調書

【問い合わせ及び出願先】

○東京外国語大学
学務部入試課入学試験係
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL：042-330-5179 e-mail：ad@tufs.ac.jp

○東京農工大学
小金井地区事務部学生支援室入学試験係
〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16
TEL：042-388-7014 e-mail：tnyushi@cc.tuat.ac.jp

○電気通信大学
学務部入試課大学院入試係
〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1
TEL：042-443-5102 e-mail：open-camp@office.uec.ac.jp

入学者選抜の概要

本専攻は、東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学の連携共同によって、それぞれの大学に設置する標準修業年限3年の大学院博士課程です。

入学定員は、11名（東京外国語大学3名、東京農工大学4名、電気通信大学4名）で、東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学の博士前期課程又は修士課程を修了した方はもちろんのこと、他分野の修士課程修了者や、職場で実務に携わっている社会人並びに外国人留学生等を広く受け入れます。

本専攻の受験を希望する方は、3大学のうち、主任指導を希望する教員が所属する大学に出願して下さい。入学後は3大学の教員が協働してあなたの指導にあたります。

入学時期は4月入学と10月入学の2種類あり、併願も可能ですが、大学によって出願時期が異なりますので、ご注意下さい。

本専攻が求める学生像（アドミッション・ポリシー）

共同サステナビリティ研究専攻の養成する人材像及び教育課程での学修において求められる資質、素養、能力等は、以下のとおりです。

- 貧困、紛争、食料・資源、エネルギー・環境、情報・ICTなどの地球規模の課題の解決に貢献したいという熱意を持ち、将来、国際社会の現場で活躍したいという意欲がある。
- 学際的・分野横断的な研究を行いうる柔軟かつ論理的な思考力と、研究遂行に必要な基礎的学識、専門性、語学力を有している。
- 多文化や多様な価値観を受容できる寛容さをもって文化や価値観が異なる環境に適切に対応できる適応力を有し、そうした環境においても自身の専門性を駆使しながら、広範な視野と高い倫理観をもって能動的に行動できるタフな精神力と実行力を備えている。

1. 募集人員

共同サステナビリティ研究専攻	入学定員	募集人員	
		2026年 10月入学	2027年 4月入学
東京外国語大学	3名	1名	2名
東京農工大学	4名	2名	2名
電気通信大学	4名	2名	2名

2. 出願資格

以下のいずれかに該当する方。

- (1) 修士の学位や専門職学位を有する者
- (2) 外国において、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院相当として指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学（大学院相当）日本校）を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院において、修士の学位を有する者と同等の学力があると認められた者
- (7) 大学院において個別の出願資格審査により認められた24歳以上の者

※(1)～(5)については、入学する月（4月又は10月）の前までに学位を取得する見込みである者を含みます。

※医学・歯学・薬学・獣医学に係る6年制の学部を卒業したことのみをもって、これを修士課程相当とし、博士課程の入学資格が認められるわけではありません。

※出願資格認定審査

出願資格(6)、(7)により出願を希望する場合は、出願前に認定審査を行いますので、出願期間初日の少なくとも一ヶ月前までに、希望する大学の入試担当に必要書類を提出して下さい。審査の結果、出願を認められた場合のみ、出願が可能となります。

【出願資格認定審査に必要な書類】

- ①出願資格認定申請書(所定用紙)
- ②入学試験出願資格認定審査調書(所定用紙)
- ③最終学歴の卒業(修了)証明書及び成績証明書
- ④志願者の研究業績が分かるもの
 - ・出願資格(6)の者について
学術論文、研究報告、特許等研究上の成果物
 - ・出願資格(7)の者について
修士論文に相当する成果物

※場合により、①～④以外の物を追加で求めることがあります。

3. 出願手続

志願者は、3大学のうち、主任指導を希望する教員が所属する大学に、出願書類を一括して指定の期日までに提出して下さい。

出願書類が受理された者に対して受験票を交付します。

(1) 出願期間

	2026年10月入学	2027年4月入学
東京外国語大学	2026年4月20日～5月1日	2026年11月4日～11月12日 (※出願期間が変更になりました)
東京農工大学	2026年7月7日～7月10日	【第1期】2026年7月7日～7月10日 【第2期】2026年11月30日～12月4日 【第3期】2027年2月26日～3月2日
電気通信大学	2026年7月21日～7月27日	【第1期】2026年7月21日～7月27日 【第2期】2027年1月4日～1月7日

【郵送により出願書類を提出する場合】

封筒に「大学院博士後期課程出願書類在中」と朱書きし、志望する大学の出願期間中に必着するよう簡易書留で郵送して下さい。各大学の提出先住所は、目次の下段を参照して下さい。

【入試担当窓口で提出する場合】

出願期間中に、志望する大学の入試担当に提出して下さい。

なお、各大学の窓口受付時間は平日（月～金）の次の時間です。

- ・東京外国語大学 9時～12時、13時～16時
- ・東京農工大学 8時30分～12時、13時～17時15分
- ・電気通信大学 10時～11時30分、13時30分～17時

(2) 出願書類等

区 分	注意事項
入学志願票 (所定用紙)	写真は、縦4cm×横3cmの大きさと、上半身・正面・無帽・出願日前3か月以内に撮影したものを貼って下さい。
受験票・写真票 (所定用紙)	
修了(見込)証明書	出身大学長(研究科長)名で発行された、大学院博士前期(修士)課程のものを提出して下さい。 日本語又は英語以外の言語で作成された証明書は、日本語又は英語訳を添付して下さい。
成績証明書	
検定料 【30,000円】 ※振込手数料は 本人負担です	志望する大学の指定口座に振り込み、支払証明書またはレシートを提出して下さい。 なお、以下の方は、検定料を免除しますので、振り込まないで下さい。 (1)国費外国人留学生の方 証明書を提出すること(但し、東京農工大の内部進学者は不要) (2)2027年3(2026年9)月に、3大学いずれかの大学院の博士前期(修士)課程または専門職学位課程を修了見込みの方が、同じ大学の2027年4(2026年10)月入学の試験を受験する場合

※出願にあたっては、主任指導を希望する教員に事前に連絡を取って下さい。

※官公庁・会社・学校等に在職のまま入学する方は、所属長の発行する入学承諾書(様式任意)を「入学手続き時」に提出して頂きますので、ご承知おき下さい。

※外国人の方は、在留資格を確認するために、パスポートの写し(日本在住の方は在留カードの写し)を「入学手続き時」に提出して頂きますので、ご承知おき下さい。

4. 入学者選抜方法

提出書類と口述試験(面接)により選抜します。

(1) 口述試験(面接)実施日

	2026年10月入学	2027年4月入学
東京外国語大学	2026年6月上旬	2027年1月下旬
東京農工大学	2026年8月20日	【第1期】2026年8月20日 【第2期】2026年12月10日 【第3期】2027年3月9日
電気通信大学	2026年8月19日	【第1期】2026年8月19日 【第2期】2027年2月1日

試験の開始時間・集合時間については別途指示します。

口述試験では、これまでの研究内容や今後の研究計画について、英語で15分程度の発表(プレゼンテーション)をして頂きますので、パワーポイント等で作成した発表資料(英語版)をご準備ください。その後、提出された志望理由書、研究計画書、論文等も踏まえた質疑応答を、英語もしくは日本語で行います。

発表では、ノートパソコンやタブレット端末を使用する事が出来ませんが、受験生が持参して下さい。プロジェクター、スクリーン、HDMIケーブルは大学が用意します。

(2) 合格発表

各大学の掲示板及びホームページにおいて発表します。

合格者には合格通知書を「あて名票」により郵送します。

	2026年10月入学	2027年4月入学
東京外国語大学	2026年6月22日	2027年2月17日
東京農工大学	2026年9月4日	【第1期】2026年9月4日 【第2期】2027年1月18日 【第3期】2027年3月19日
電気通信大学	2026年9月8日	【第1期】2026年9月8日 【第2期】2027年2月26日

5. 入学手続

(1) 入学手続期間

この期間内に入学手続きを完了しない場合は、入学辞退者として取り扱うので注意して下さい。
なお、東京外国語大学では、海外在住の留学生に限り、入学手続期間中に入学の意思を示す確約書
が提出された場合、入学手続期間の延長に配慮します。

	2026年10月入学	2027年4月入学
東京外国語大学	2026年7月下旬	2027年3月19日まで
東京農工大学	2026年9月11日	2027年3月中旬～下旬
電気通信大学	手続は郵送のみ 2026年9月18日締切（必着）	2027年3月下旬

(2) 入学に要する費用等

入学料 282,000 円

ただし、国費外国人留学生の方は入学料の納付が不要です。

また、2027年3（2026年9）月に、3大学いずれかの大学院の博士前期（修士）課程を修了見込みの方が、2027年4（2026年10）月入学の試験により、同じ大学の大学院博士後期課程に入学する場合も、入学料の納付が不要です。

入学手続きに必要な提出書類及び提出方法については、合格者にあらためて通知します。

授業料は、東京外国語大学と電気通信大学は年額 535,800 円、東京農工大学は年額 642,960 円です。ただし、入学後国費留学生となる方は納入不要です。

入学時または在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料を適用します。

入学時には、上記入学料等のほか、学生教育研究災害傷害保険料等の諸経費が必要になります。

6. 海外在住者の受験について

外国に在住している志願者で、受験のための来日が困難な者は、口述試験をオンラインで行うことができます。希望者は各大学にお問い合わせください。

7. 社会人の授業及び研究指導について

(1) 修業年限

本専攻の標準修業年限は3年ですが、社会人が学びやすい環境を整備するため、標準修業年限の2倍の年数を超えない範囲で、長期にわたり計画的な履修を可能とする長期履修制度が利用できます。

(2) 履修指導及び研究指導の方法

教育上必要と認められる場合には、「大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例」を適用し、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行います。

8. 障害等のある入学志願者の事前相談

学校教育法施行令第22条の3に定める障害等のある志願者又は発達障害のある志願者で、その障害等の程度に応じ、受験上及び修学上の特別な配慮を必要とする方は、出願前に各大学の入試担当に相談して下さい。

9. 個人情報の利用について

出願にあたり提供された氏名、住所、電話番号及び入学者選抜の成績等の個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び各大学の個人情報保護に関する規程に基づき、次のとおり取り扱います。

- 出願者の情報は、入学者選抜、合格発表及び入学手続業務に利用します。
- 入学者の情報は、教務関係(学籍簿の作成等)、学生支援関係及び授業料徴収に関する業務に利用します。
- 入学者選抜に用いた試験成績等の情報は、入試結果の集計・分析及び入学者選抜方法の調査・研究のために利用します。

10. 注意事項等

- (1) 出願手続完了後は、検定料の払い戻しや提出書類の返却は行いません。
- (2) 提出書類に偽りの記載又は隠した事実があったときは、入学後といえども入学を取り消すことがあります。
- (3) 入学手続を完了した方が入学を辞退する場合は、入学する月の前月末日（土日祝日の場合はその前の平日）までに、入学辞退届を入学手続をした大学の入試担当へ提出しなければなりません。入学辞退届を提出しない場合には、入学する月以降学籍が作られ、授業料納付の義務が発生する等の問題が生じるので、早めに届け出て下さい。
- (4) 入学手続期間終了後、全体の募集人員に欠員が生じた場合には、追加合格又は追加募集を行う場合があります。
- (5) 本専攻では、関係法令等に基づき、大量破壊兵器の開発・製造等に転用されることを未然に防止する観点から、貨物の輸出、技術の提供等について、厳格な審査を実施しています。学生の受入れについても、法令等の規制対象となる場合には、教育・研究活動に制限を受ける場合があります。このため、事前に指導希望教員と出願についてよく相談してください。なお、入学時には、適切な輸出管理を行うことについて誓約書を提出していただきます。

11. 指導教員について

本専攻で指導を担当する教員は次のとおりです。主任指導を希望する教員が所属する大学に出願して下さい。なお、星印のついた教員は2026年度以降、主任指導教員にはなりません。また、教員の構成には変更が生じる場合があります。最新の情報は専攻ホームページで確認してください。

東京外国語大学		
主要教育 研究分野	担当教員名	研究内容
地域動態論	★ 武内 進一 <i>shinichi_takeuchi</i> <i>@tufs.ac.jp</i>	担当教員自身はアフリカ研究、特に政治、開発、紛争と平和構築といったテーマを専門とするが、本専攻の講義や演習では、世界各地で生起する諸問題を体系的な手法に沿って考察するために、国際政治学、比較政治学、社会人類学などの方法論や、個別具体的な場所の特質を数量的データから理解する方法などを学ぶ。「持続可能な開発」「国家建設」「紛争解決」「平和構築」といったトピックが中心課題となるが、これらは、今日的なグローバルイシューに対応している。国際的な場面での具体的なハードケースを学ぶなかで、適切な判断力の涵養を目指す。
グローバル スタディーズ	★ 中山 智香子 <i>nakac</i> <i>@tufs.ac.jp</i>	担当教員自身は経済・社会思想、特に20世紀以降のドイツ語圏のそれを専門とするが、それは思想界でもグローバル化の進展を視野に、政治・経済・社会の相互関係や、社会と科学の関わりが問われた時代であった。本専攻の講義や演習ではグローバルスタディーズにおいて、社会科学や人文知を柔軟に援用して科学の基盤を問い、人間とグローバル世界の経済を、国家と国際関係、国を超えた地域（EU、AU等）やコミュニティ、NGOなど多様なアクターと構造から考察する。SDGsを研究上の指標、研究目的として重視し、多様で自発的かつ持続可能な発展の理論的、思想的基盤を培う。
アフリカ地域研究、 移民・難民研究	佐藤 千鶴子 <i>satochi</i> <i>@tufs.ac.jp</i>	担当教員自身は、アフリカ地域研究と国際関係論を専門とし、貧困問題、移民・難民、社会開発、国家社会関係について研究している。本専攻の講義や演習では、グローバルサウスの国家と社会の持続可能性を脅かすさまざまな問題群に対して、質的調査の手法を用いてアプローチし、分析する力を養うことを目指す。このアプローチでは、対象国や地域の歴史的経緯と政治経済的文脈を学び、理解することを重視する。グローバルサウスの貧困問題は、国際人口移動や開発援助を通じてグローバルノースの社会とつながっている。それゆえ、国際社会のレベルでの取り組みについて学び、それらを評価する視点を培うことにも取り組む。
開発経済学	出町 一恵 <i>k.demachi</i> <i>@tufs.ac.jp</i>	担当教員自身は、国際経済学、国際金融論、開発経済学を専門とし、主にアフリカやアジアの国々を研究対象としている。本専攻の講義や演習では国際的およびローカルな視点から、社会における経済や開発の問題について、主に統計データに基づいた考察を行う。「カネ・ヒト・モノ・サービス」の流れや、「天然資源と社会経済」の間のかかわりといった側面からサステナビリティを考えていく。また、データを用い正しい因果関係に気づくための訓練を行いながら、世界や社会で起きている事象を理解し分析する視点と手法を身につけていく。
東南アジア地域研究	日下 涉 <i>kusaka</i> <i>@tufs.ac.jp</i>	担当教員自身は、政治学と文化人類学を基盤に、フィリピンを中心とする東南アジア地域研究を専門とする。サステナビリティをめぐる様々な課題に取り組んでいくには、まず現場で何が起きているのか、現地の人びとが彼らを取り巻くイシューをどのように理解しているのか、自分たちの行動にどのような意味を与えているのかについて、内在的に理解していく必要がある。本専攻の講義や演習では、フィールド調査やエスノグラフィといった方法論を通じて、広範な政治過程（価値の定義や資源の配分をめぐる支配・抵抗・競争）を、草の根の人びとのリアリティに基づいて、「下から」理解していく方途を身につけていく。

環境保全論	東城 文柄 tojo.b21 @tufs.ac.jp	担当教員自身はベンガル地域研究、地理学、地理情報システム学（GIS）を専門とし、南アジアから東南アジアをフィールドに、土地被覆・土地利用変化や森林保全に関する地域研究、公衆衛生分野、熱帯感染症のサーベイランスや空間疫学に関する研究に取り組んできた。本専攻の講義や演習では、地域研究および応用地理学の視点を活かし、社会問題や環境問題に対応するための知識と技能を学生に指導することを重視する。地域の自然環境と社会環境を総合的に把握し、その評価や批判を通じて、地域課題の解決に向けた整合性のある計画や提言を模索する。「開発と環境保全」を主要なテーマとし、フィールドワークを基盤とする地域研究に加え、GIS や統計解析など地理学的手法を活用した具体的な地域分析能力を育成する。さらに、地域住民の視点を取り入れた問題解決型の研究を推進し、その成果を地域社会の現場で実践的に活用できる力を養成する。
グローバル スタディーズ	平田 周 shushu68 @tufs.ac.jp	担当教員自身は、フランスを主とするヨーロッパの思想史を専門とし、とりわけ都市・空間論に焦点をあてている。本専攻の講義や演習では、彼は、都市化とグローバル化との相互作用を出発点としながら、グローバル化が国家間の変化だけでなく、自治体間の競争を通じた国内の地理的不平等を生み出していること、都市化が都市の地理的な境界を超えて、さまざまな後背地―農村、森林、海洋、原生地などに影響を与えていることを取り上げる。学生たちとともに、これまでの都市化のありかたを批判的に検討し、異なる都市化の方法を構想することで、オルタナティブな都市、国家、世界のヴィジョンに結びつくようなアイデアを考えていきたい。

東京農工大学		
主要教育 研究分野	担当教員名	研究内容
植物生産科学	伴 琢 也 tban @cc.tuat.ac.jp	作物の成長過程には複数の要因が異なる強度で影響する。さらに、たとえ同一要因であっても、要因に対する作物の応答反応は成長ステージにより大きく異なる。そのため、持続的に作物生産を継続するためには、作物の成長に関する複雑な制御メカニズムを理解し、これらの知見に基づいた新たな栽培方法を確立する必要がある。本研究室は、熱帯（東南アジア）、乾燥帯（ウズベキスタン共和国、中華人民共和国寧夏回族自治区他）および温帯（国内）地域を研究フィールドとし、各地で栽培されている作物のなかでも、特に果樹を研究対象とする。これらの作物の成長と内外性要因の関係を精査、比較することにより、高収量・高品質を実現する新たな栽培方法を開発することを目指す。
生体医用システム	伊 藤 輝 将 teru-ito @cc.tuat.ac.jp ★ 三 沢 和 彦 kmisawa @cc.tuat.ac.jp	人々が健康で安全な生活を送るために、高度な医療技術の進歩と革新、生活の質的向上に対する需要が年々高まってきている。これらの要請に応える先端技術を創出するには、エレクトロニクスや情報技術等を支える工学分野と、医学、薬学、農学などの生命科学に関わる分野間で緊密に連携、協働することが重要である。本研究室では超高速光学と分子分光学の技術を基に、生体医用システム工学の基礎研究から応用研究、実用化へと至るシームレスな研究開発を行っている。これにより、次世代の医療診断、創薬、食品科学を革新する新技術を創出し、新しい産業分野の創生につなげる。 先端科学技術に基づくイノベーションを創成するにあたっては、基礎研究から応用研究さらには実用化研究に至る研究開発活動において、環境調和性のみならず、社会的意義や文化的価値も重視し、さらに経済的可能性も考慮したサステナビリティ研究が極めて重要である。本研究室では、主として生体医用システムを対象に、学術的な独創性と産業的な革新性を併せ持つ産業応用の検討および、社会実装における持続可能性の検証を行っている。科学技術イノベーションにおけるサステナビリティの概念を可視化し、国際社会へ普及させることを目指した自然科学的かつ社会科学的研究を推進している。

エネルギー科学	<p>★ 香 取 浩 子</p> <p><i>h-katori</i> <i>@cc.tuat.ac.jp</i></p>	<p>エネルギー資源の確保・環境保全などの複雑化した課題に対しては、工学分野単独ではなく、多様な分野を融合・統合した総合的な学問分野からの探求が必要である。また、新産業創出につながる新たな技術を提案するためには、これらの複雑な問題を要素ごとに細分化し(システムズアプローチ)、幅広い視点で捉える必要がある。磁性体の相転移の機構を明らかにする研究手法は、エネルギーに関連する複雑な問題を解決する手法と類似している。そこで、持続発展可能な社会を実現するために、この磁気相転移の研究から学んだ研究手法をエネルギー問題に適用し、「新しい原理によるエネルギー問題解決手法の提案」「新たな手法によるエネルギー変換技術の実現」「エネルギーや環境に配慮した新しい生産プロセスの開発」などの課題に取り組む。</p>
生物資源機能化学	<p>★ 野 村 義 宏</p> <p><i>ny318</i> <i>@cc.tuat.ac.jp</i></p>	<p>農業の発展、農業者の所得増大には、農産物のもつ機能成分を利活用して新たな商品を開発し、その素材として農産物を供給するという高付加価値化戦略が、今後ますます重要になる。さらに、廃棄されていた未利用部位の有効利用の促進も求められる。こうした開発戦略は、生物資源を多数保有している途上国においてこそ、効果的に作用する可能性が高い。このような現代社会のニーズに応えるため、化学的又は生物学的アプローチにより、未利用生物資源の新規用途開発及び生物資源の再生利用に関する先端的かつ実践的な研究を行う。未利用生物資源の有効な利活用を目指し、国内外の様々な農林水産資源の機能成分の分析及び社会実装化のための課題の抽出と解決に取り組む。</p>
経営学/ 新事業開発戦略・イノベーションマネジメント	<p>林 田 英 樹</p> <p><i>hideki-hayashida</i> <i>@go.tuat.ac.jp</i></p>	<p>企業においては、環境・社会・経済の三側面をバランスよく考慮し、長期的に持続可能な事業運営を目指すことが求められています。企業がこのようなサステナビリティを重視することで、企業価値の向上、投資家や消費者からの支持、リスク管理など、多くのメリットが得られます。その具体的な実行のためには、短期的利益と長期的視点のバランスを取ったイノベーション活動が不可欠です。本研究室では、持続的成長のドライバーである研究開発や新事業開発マネジメント領域において、イノベーション活動を対象に、学術的かつ社会経験・現場経験に裏付けられた解析ツール、評価方法、進化的経営戦略のパターン分析に関する研究を行っています。</p>

電気通信大学		
主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
社会システム工学	<p>山 本 佳 世 子</p> <p><i>kayoko.yamamoto</i> <i>@uec.ac.jp</i></p>	<p>豊かで安心な社会の創造と継続がグローバルな目標であり、地球規模での資源開発、異常気象や災害などの自然環境問題の解決が、先進国、発展途上国を問わず喫緊の課題となっている。このような現代社会のニーズに応えるため、多様な情報の利活用方法を習得し、上記の課題を解決するための社会システムの設計に関する研究に取り組む。そのためには、G空間情報などの多様なビッグデータの解析、数理モデル、アルゴリズム、コンピュータ技術、調査結果を分析するために必要不可欠な統計的手法を学修する。このような新しい取り組みにより、実世界での安全性を継続的に確保するために地球規模での問題を解決し、高信頼で安全な社会の実現に貢献することを目指す。</p>
情報・通信工学	<p>橋 山 智 訓</p> <p><i>hashiyama.tomonori</i> <i>@uec.ac.jp</i></p>	<p>高齢化社会、発展途上国など経済発展、資源開発、健康福祉などのグローバル社会の抱える課題を情報・通信・ネットワーク技術（ICT）により解決することが期待されている。このような現代社会のニーズに応えるため、情報・通信・ネットワーク・メディア処理・ヒューマンマシンインタラクションや、これらを支える数理情報解析技術・機械学習・人工知能技術・コンピュータ・電気電子システム技術など、高度コミュニケーション社会の基盤となる情報・通信・ネットワーク技術に関する研究に取り組む。高い信頼性と安定性を持つ情報ネットワークの構築を通じて人々に豊かさをもたらし、超スマート社会実現への貢献を目指す。</p>

計測・制御	<p>横井 浩史</p> <p><i>yokoi</i> @mce.uec.ac.jp</p>	<p>世界各地でグローバル社会の高齢化や貧困に伴う問題を解決し、快適な生活を支援する取り組みが必要とされている。</p> <p>交通、航空宇宙、医療などの多様な分野で機器の自動化・高機能化が進行し、特に計測・制御技術に基づくメカトロニクス、生体及び医用工学は急速に発展している。計測・制御は横断型工学であり、その対象をシステムとして把握することが不可欠である。</p> <p>以上の現代社会のニーズに応えるため、計測・制御を基盤に、感覚・知覚や運動などの人間の特性や機能を体系的に理解したうえで、メカトロニクス、生体及び医用工学に関する研究に取り組む。</p> <p>今後、ロボットと人間のさらなる調和を図り、高齢者や障害を持つ人々の生活環境の改善・支援への貢献を目指す。</p>
医療環境実装学	<p>★ 石垣 陽</p> <p><i>ishigaki</i> @uec.ac.jp</p>	<p>環境衛生と安全性に対する世界的な関心が高まる中、目に見えない環境リスクを多様な人々に分かりやすく可視化するソリューションの必要性が増えています。「人類のためのデザイン」という理念に基づき、私たちの研究は2つの主要分野に焦点を当てています：環境測定システム（電離放射線、PM2.5、CO2、VOC 向け）と医療機器開発（特に弱視治療のための Occlu-pad）です。学術研究だけでなく実践的な実装を重視し、インド、ウズベキスタン、アルメニア、ベトナム、ケニア、ルワンダ、ミャンマーなどでの国際臨床試験を通じて、研究成果をグローバルな製品やサービスとして展開することに成功しています。研究手法は現場での直接的な調査と利害関係者との協働設計を重視し、既存技術を革新的に組み合わせることで、特に支援の行き届いていない人々でも利用可能な、費用対効果の高いソリューションの創出を目指しています。</p>
ロボット工学	<p>姜 銀来</p> <p><i>jiang.yinlai</i> @uec.ac.jp</p>	<p>ロボット工学は、機械、電子、人工知能などの工学分野のみではなく、生理学、心理学、脳科学などの人間科学も含む学際的な研究領域である。ロボットによる労働力、サービス、介護、交流の提供は、社会の持続的な発展に貢献する重要な役割を果たしている。本研究室は、人間とロボットとのコミュニケーションとインタラクションを促進することで、人間とロボットとの共生の実現を目指す。具体的には、身体機能の代替と回復のためのリハビリテーション・ロボット、肢体不自由者をサポートする生活支援ロボット、およびロボットの使用性を高めるヒューマン・ロボット・インターフェースの開発を行っている。</p>

Table of Contents

• Overview of Selection	13
• Admission Policy	13
1. Intake	14
2. Eligibility	14
3. Application Procedure	15
4. Selection	18
5. Enrollment Procedure	19
6. Examinations for Overseas Residents	19
7. Classes and Research Guidance for Working Adults	19
8. Consideration for Physically Challenged Applicants	20
9. Handling of Personal Information	20
10. Notes	20
11. Academic Supervisors.....	21

Attachments

- (1) Application Form 入学志願票
- (2) Address Labels あて名票
- (3) Examination Admission Card 受験票 and Photograph Card 写真票
- (4) Request Form for Eligibility Check 出願資格認定申請書 (Only for the applicants who fall into 2. Eligibility (6) or (7))
- (5) Eligibility Check Form 出願資格認定審査調書 (Only for the applicants who fall into 2. Eligibility (6) or (7))

Contact Information

Admissions Office, Tokyo University of Foreign Studies (TUFS)
3-11-1 Asahi-cho, Fuchu-shi, Tokyo 183-8534, JAPAN
TEL: +81-(0)42-330-5179 e-mail : ad@tufs.ac.jp

Admissions Office, Tokyo University of Agriculture and Technology (TUAT)
2-24-16 Naka-cho, Koganei-shi, Tokyo 184-8588, JAPAN
TEL: +81-(0)42-388-7014 e-mail : tnyushi@cc.tuat.ac.jp

Admissions Office, The University of Electro-Communications (UEC)
1-5-1 Chofugaoka, Chofu-shi, Tokyo 182-8585, JAPAN
TEL: +81-(0)42-443-5102 e-mail : open-camp@office.uec.ac.jp

Overview of Selection

The Joint Doctoral Program for Sustainability Research is a three-year doctoral program offered at Tokyo University of Foreign Studies (TUFS), Tokyo University of Agriculture and Technology (TUAT), and the University of Electro-Communications (UEC), as a part of the cooperative initiative of the three universities.

The total program intake is eleven (three for TUFS, four for TUAT, and four for UEC). The Program welcomes not only master's students of TUFS, TUAT, and UEC, but also master's students in other academic fields, working adults, and international students.

Those interested in this Program are expected to apply through one of the three universities to which their preferred academic supervisor belongs. Professors from all three universities will jointly supervise the enrolled students.

There are April and October admissions, and applicants are free to apply for both. Please be aware that the application period differs depending on the university.

Admission Policy

We seek Program applicants with the following qualities and abilities.

- Possess a passion for combating global problems of poverty, conflicts, food and resources, energy and the environment, information and ICT, and being motivated to play a role in the global society in the future.
- Able to think logically and flexibly to conduct interdisciplinary and cross-sectoral research and to demonstrate the academic knowledge, expertise, and language skills required to conduct research.
- Able to adapt to various environments and diverse cultures; accepting of cultural values different from one's own; equipped with the expertise, broad vision, ethical sensibility, and a resolute mind to play an active role in carrying out missions on a global scale.

1. Intake

Joint Doctoral Program for Sustainability Research	October Admission	April Admission	Total
Tokyo University of Foreign Studies (TUFS)	1	2	3
Tokyo University of Agriculture and Technology (TUAT)	2	2	4
The University of Electro-Communications (UEC)	2	2	4

2. Eligibility

Applicants must meet one of the following conditions:

- (1) Those who have obtained or are expected to obtain a master's or a professional degree.
- (2) Those who have obtained or are expected to obtain a degree equivalent to a master's or a professional degree at an educational institution outside Japan.
- (3) Those who have obtained or are expected to obtain a degree equivalent to a master's or a professional degree within Japan through correspondence courses offered by a foreign educational institution.
- (4) Those who have completed or are expected to complete a course which is recognized by the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) of Japan to be equivalent to a postgraduate course in a foreign country, at a foreign educational institution in Japan (文部科学大臣指定外国大学[大学院相当]本校) and have obtained or are expected to obtain a degree equivalent to a master's or a professional degree.
- (5) Those who have completed or are expected to complete a course offered by the United Nations University and have obtained or are expected to obtain a degree equivalent to a master's degree.
- (6) Those who have engaged in research at a university or a research institution for a minimum of two years after graduating from a university and approved by the applying Graduate School, based on their achievement, as having the academic ability equivalent to or higher than a master's degree holder.
- (7) Those who have been screened individually for eligibility and approved by the applying Graduate School and are aged 24 or older.

※Eligibility (1) to (5) apply to persons who are expecting to obtain a specified degree by the month of enrollment (April or October).

※ Completing a 6-year university course in medicine, dentistry, or pharmacology cannot be regarded as equivalent to completing a Master's Program and in no way secures eligibility to apply for this Doctoral Program.

※If you wish to apply under Eligibility (6) or (7), you need to request an individual eligibility check prior to your application. Please submit the following items to the Admissions Office of your university of choice at least one month before the first day of the Application Period.

- ① Request Form for Eligibility Check (出願資格認定申請書) (Form provided)
- ② Eligibility Check Form (入学試験出願資格認定審査調書) (Form provided)
- ③ A certificate of graduation and a transcript issued by the most recently attended school
- ④ Document(s) presenting research achievements
 - If the Eligibility (6) above applies to you, you must submit either an academic thesis, a research report, or a research product such as a patent.
 - If the Eligibility (7) above applies to you, you must submit a work equivalent to a master's thesis.

※We may request additional items other than the documents above.

3. Application Procedure

Applicants must submit all the required application documents as one packet by the designated deadline to the Admissions Office of the university to which their preferred academic supervisor belongs.

An Examination Admission Card 受験票 will be given to the applicants whose applications have been accepted.

(1) Application Period

	2026 October Admission	2027 April Admission
TUFS	From Apr.20 to May 1, 2026	From Nov.4 to Nov.12, 2026 (*Change in Application Period)
TUAT	From Jul.7 to Jul.10, 2026	【1st Phase】 From Jul.7 to Jul.10, 2026 【2nd Phase】 From Nov.30 to Dec.4, 2026 【3rd Phase】 From Feb.26 to Mar.2, 2027
UEC	From Jul.21 to Jul.27, 2026	【1st Phase】 From Jul.21 to Jul.27, 2026 【2nd Phase】 From Jan.4 to Jan.7, 2027

[Submit by Post]

Send your application packet by **registered post**. Write “Application for the Doctoral Program” in red on the envelope. Your application packet must arrive at the Admissions Office within the Application Period. Please refer to page 12 for the mailing address.

[Submit in Person]

Bring your application documents to the Admissions Office of your applying university within the Application Period.

Hours: Weekdays, except for national holidays.

- TUFS 9:00-12:00 and 13:00-16:00
- TUAT 8:30-12:00 and 13:00-17:15
- UEC 10:00-11:30 and 13:30-17:00

(2) Application Documents

Items	Note
Application Form 入学志願票	Use the provided form. Fill out the necessary information and paste a photograph (4cm long by 3cm wide, upper body, face front, no hat, and taken within three months before the application).
Examination Admission Card 受験票 and Photograph Card 写真票	
Transcript	Transcript and Certificate of (Expected) Graduation must be issued under the name of the graduate school president or dean. In case the original document is issued in a language other than Japanese or English, you must attach a Japanese or an English translation of the original.
Certificate of (Expected) Graduation	
Application Fee (JPY 30,000)	Make a payment to a designated bank account and submit a proof of application fee payment or a receipt. The following applicants are exempted from the application fee payment.

	<p>(1) Recipients of the MEXT scholarship. Applicants must submit a certificate that confirms the receipt of the MEXT scholarship. (TUAT master's students proceeding to the doctoral course at TUAT are not required to submit it.)</p> <p>(2) Applicants currently enrolled in a Master's or Professional Program at either TUFS, TUAT or UEC, expected to graduate in March 2027 (September 2026) and who wish to continue to the Doctoral Program at the same university through the entrance examination for April 2027 (October 2026) admission.</p> <p><Designated Bank Account></p> <p>【TUFS】 To make a domestic bank transfer, refer to page 4 (in Japanese). To make an overseas remittance, consult with the Admissions Office in advance.</p> <p>— — — — —</p> <p>【TUAT】 To make a domestic bank transfer, refer to page 4 (in Japanese). To make an overseas remittance, consult with the Admissions Office in advance.</p> <p>— — — — —</p> <p>【UEC】 To make a domestic bank transfer, refer to page 4 (in Japanese). To make an overseas remittance, consult with the Admissions Office in advance.</p>
Address Labels あて名票	<p>On the provided three Address Labels (あて名票), write down your postal code, name and address (within Japan) to which we can send various documents, including a Notice of Acceptance.</p> <p>*If you reside outside Japan, you must specify a representative who resides in Japan. Provide the representative's address on the Address Labels and write your name in parentheses alongside the representative's name.</p>
Self-addressed Envelope (Letter Pack Light)	<p>This is applicable only if you are submitting your application by post. Your Examination Admission Card (受験票) will be sent by Japanese registered post using this self-addressed envelope. Purchase a Letter Pack Light from the post office, and write down your postal code, name and address (within Japan) to which we can send the post. Fold it in half and enclose it with your application documents.</p> <p>*If you reside outside Japan, you must specify your representative living within Japan. Please provide the representative's address on the envelope and write your name in parentheses alongside the representative's name.</p>
English Proficiency Test Score Report	<p>Applicants whose native language or educational language is not English are required to submit a score report (or a certificate) for one of the English tests listed below. A copy of the original report (certificate) is acceptable. The test must have been taken within three years before the application.</p>

	<p>* If you are unsure whether your native language/medium of education is/was English, please contact the Admissions Office of the university you are applying for.</p> <p>Acceptable tests: TOEIC, TOEFL, Cambridge English, IELTS, etc.</p> <p>* For TOEIC-IP and TOEFL-ITP, you can submit only implemented at each of TUFS, TUAT or UEC</p>
Personal Statement (1 copy)	Use A4 size paper and keep the word count within 1,000 characters in Japanese or 250 words in English. Provide the program name you are applying for, your research title, and your name on a separate title page.
Research Proposal (1 copy)	Use A4 size paper and keep the word count within 2,000 characters in Japanese or 500 words in English. Provide the program name you are applying for, your research title, and your name on a separate title page.
Thesis Abstract (1 copy)	Submit an abstract of either a master's thesis, research findings, or achievement. Use A4 size paper and keep the word count within 2,000 characters in Japanese or 500 words in English. Provide the program name you are applying for, your research title, and your name on a separate title page. If you cannot submit such an abstract due to issues like intellectual property rights, consult your preferred supervisor in advance.
Master's Thesis (1 copy)	<p>Submit either a master's thesis, research findings, or achievement. Those who have not yet obtained a master's degree do not have to submit it. If you cannot submit such an abstract due to issues like intellectual property rights, consult your preferred supervisor in advance. Provide the program name you are applying for, your research title, and your name on a separate title page.</p> <p>In case your thesis is written in a language that is neither Japanese nor English, submit also its summary translated in either Japanese or English as indicated above.</p>

- ※**Applicants must contact their preferred principal academic supervisor prior to their application.**
- ※Successful applicants who will continue to work after enrollment must submit a “Letter of Approval to be Enrolled in the Doctoral Program” issued by their employer or school president in any form of paper during the Enrollment Procedure.
- ※International students are required to submit a copy of their passport (or a copy of their residence card if residing in Japan) during the Enrollment Procedure to show their visa status.

4. Selection

Selection will be made based on the submitted documents and the results of the entrance examination (Presentation and Interview).

(1) Entrance Examination (Presentation and Interview)

	2026 October Admission	2027 April Admission
TUFS	Early Jun. 2026	Late Jan. 2027
TUAT	Aug.20, 2026	【1st Phase】 Aug.20, 2026 【2nd Phase】 Dec.10, 2026 【3rd Phase】 Mar.9, 2027
UEC	Aug.19, 2026	【1st Phase】 Aug.19, 2026 【2nd Phase】 Feb.1, 2027

The time and place of the entrance examination will be announced after the application is closed. In the entrance examination, applicants are asked to make a 15-minute presentation in English about their research and study plan. Please prepare your presentation in English (e.g., PowerPoint slides). An interview will follow after the presentation. The interview will be based on the submitted personal statement, research proposal, and thesis. Applicants are allowed to bring and use a laptop and/or a tablet for the presentation. Devices such as a projector, screen, and HDMI cables are available at each university

(2) Announcement of Results

The results will be announced on the bulletin board and each university's website. Notice of Acceptance will be sent to successful applicants by Japanese registered post to the address indicated on the Address Labels (あて名票).

	2026 October Admission	2027 April Admission
TUFS	Jun.22, 2026	Feb.17, 2027
TUAT	Sep.4, 2026	【1st Phase】 Sep.4, 2026 【2nd Phase】 Jan.18, 2027 【3rd Phase】 Mar.19, 2027
UEC	Sep.8, 2026	【1st Phase】 Sep.8, 2026 【2nd Phase】 Feb.26, 2027

5. Enrollment Procedure

(1) Period for the Enrollment Procedure

Successful applicants are expected to register themselves within the designated period. Those who fail to complete the procedure during the period will not be allowed to be enrolled in the program, even after passing the examination. Note that TUFS will consider extending the enrollment period only for international students residing abroad if they submit a confirmation letter during the enrollment period indicating their intention to be enrolled.

	2026 October Admission	2027 April Admission
TUFS	Late Jul. 2026	By Mar.19, 2027
TUAT	Sep.11, 2026	Middle~Late Mar. 2027
UEC	(Post only) Must arrive by Sep.18, 2026	Late Mar. 2027

(2) Admission Fee

JPY 282,000

Please note that the following applicants are exempted from the admission fee payment.

(1) Recipients of the MEXT scholarship

(2) Applicants who are currently enrolled in a Master's or Professional Program at either TUFS, TUAT or UEC, who are expected to graduate in March 2027 (September 2026), and who are scheduled to enter the Doctoral Program at the same university upon successfully passing the entrance examination for April 2027 (October 2026) admission.

- Details on the Enrollment Procedure will be announced to each successful applicant.
- The tuition fee is JPY 535,800 per academic year for the students to be enrolled in TUFS and UEC and JPY 642,960 for the students to be enrolled in TUAT. Successful applicants who are scheduled to be granted MEXT scholarship after admission are exempted from payment of the tuition fee.
- If the tuition is revised at the time of enrollment or during the academic year, the new tuition will be charged.
- Successful applicants are required to pay for the Personal Accident Insurance for Students Pursuing Education and Research (PAS) and other miscellaneous fees, in addition to the admission fee, during the Enrollment Procedure.

6. Examinations for Overseas Residents

Applicants residing in a foreign country who have difficulty coming to Japan to take the examination may take the oral examination online. Please contact the respective universities if you wish to do so.

7. Classes and Research Guidance for Working Adults

(1) Duration of Study

While the standard duration of study for this Program is three years, to promote a favourable academic environment for working adults, a special provision to extend the study period beyond three years may be granted so long as the extended period does not exceed twice the period of the regular duration of study.

(2) Academic and Research Guidance

Special arrangements may be made when necessary, such as holding classes and research guidance sessions in the evening, changing times or durations, etc., pursuant to the special measures in Article 14 of the Standards for the Establishment of Graduate Schools.

8. Consideration for Physically Challenged Applicants and the opportunities for consultation in advance
Applicants with a disability or developmental disorder, as specified in Article 22, Clause 3 of the Order for Enforcement of the School Education Act of Japan, who need special adjustments and support in accordance with the degree of their difficulty during the examination and after admission are strongly recommended to consult with the Admissions Office prior to their application. If you come to need such care after you have applied, please contact the Admissions Office immediately. (See “Contact Information” on page 12.)
9. Handling of Personal Information
In accordance with the “Act on Protection of Personal Information” and the regulations on personal information protection set by each university, we handle personal information submitted by applicants at the time of application, such as an applicant’s name, address, phone number, academic grades, and test scores, as follows:
- Information provided by the applicants is used only for the purposes related to selection, admission, and enrollment.
 - Information on successful applicants who have completed the Enrollment Procedure is used only for educational and related purposes (e.g., creating a student registry), student affairs, and collecting tuition.
 - Information obtained through the entrance examination will be used in statistical analysis of examination results and in research on admission methods.
10. Notes
- (1) The application fee is not refundable once the application has been accepted. Documents will not be returned once the application has been accepted.
 - (2) If the information submitted is detected to be false or does not include facts that must be presented to us, we have all the right to cancel the applicant’s enrollment even after the completion of the enrollment procedure.
 - (3) A successful applicant who decides not to join the Program after completing the enrollment procedure must submit a Request Form for Withdrawal from Enrollment to the Admissions Office by the last day of the month before the month of enrollment (weekdays only). If you fail to submit the request form by the deadline, you will be registered in our university system, be required to make a tuition payment, and may face other problems. Make sure to submit the request form as soon as possible if you withdraw from the program.
 - (4) In case of a remaining vacancy in the program after the enrollment period, we may offer additional admission or conduct another selection process.
 - (5) Following relevant laws and regulations, the department conducts strict screening for the export of cargo, provision of technology, etc., from the viewpoint of preventing diversion to the development or manufacture of weapons of mass destruction, etc. The department also implements strict screening for the acceptance of students. When students are accepted, their educational and research activities may also be restricted if they are against laws and regulations. You are asked to consult carefully with your prospective supervisor about your application in advance. In addition, at the time of admission, students are required to submit a written pledge to ensure that appropriate export control measures are taken.

11. Academic Supervisors

Below are the faculty members for this Program. Applicants must apply through the university to which their preferred academic supervisor belongs. Faculties with an asterisk (★) cannot be academic principal supervisor in and after AY2026. The list of faculty members may be updated. Please check the web homepage of this program.

Tokyo University of Foreign Studies		
Field of Study	Name	Research Contents
Area Studies	★Shinichi TAKEUCHI <i>shinichi_takeuchi</i> <i>@tufs.ac.jp</i>	Shinichi Takeuchi specializes in African studies, particularly in themes such as politics, development, peace-building, and international conflict. In this course, he will provide lectures and seminars aiming at building a capacity to analyze contemporary issues using systematic methods. Students are required to conduct critical analyses of methodologies, including international politics, comparative politics, and social anthropology. In addition, current global issues of sustainable development, state-building, conflict resolution, and peace-building will be analyzed in the classes through specific case studies for the purpose of fostering capabilities to deal with contemporary challenges.
Global Studies	★Chikako NAKAYAMA <i>nakac</i> <i>@tufs.ac.jp</i>	Chikako Nakayama specializes in economic and social thought, focusing mainly on German-speaking countries since the 20 th century, when the balance among politics, economy, and society, and the relationship between society and science were fundamentally questioned in the midst of globalization. She will provide lectures and seminars on global studies, analyzing the foundation of sciences with perspectives of social science and humanities, and dealing with the global and human economy through the analysis of structures and actors of our contemporary world, such as nation-states, international relations, regions and communities, and NGOs. Sustainable development is an important subject of education and research. She will introduce students to logical and ideological approaches to realize diverse, spontaneous, and sustainable development.
African studies, Migration and refugee studies	Chizuko SATO <i>satochi</i> <i>@tufs.ac.jp</i>	Chizuko Sato specialises in African studies and International Relations, with research into poverty issues, migration and refugees, social development and state-society relations. In this course, she will provide lectures and seminars aiming to develop the ability to explore and analyse various issues that threaten the sustainability of states and societies in the Global South, using qualitative research methods. This approach emphasises understanding the historical experiences and political and economic context of the countries under study. Poverty issues in the Global South are linked to societies in the Global North through international population movements and development aids. Hence, students are also encouraged to learn about initiatives at the level of the international community and develop a perspective to evaluate them.
Development Economics	Kazue DEMACHI <i>k.demachi</i> <i>@tufs.ac.jp</i>	Kazue Demachi specializes in International Economics, International Finance, and Development Economics, focusing on African and Asian countries. In this course, she will provide lectures and seminars on economic development based on statistical analysis. Students are expected to obtain knowledge and views to analyze “sustainability” in terms of the flow of [money/people/goods and services] and correlations between [natural resources and economy]. Through the data and causality analysis exercises, students are also expected to acquire methods to understand and analyze issues in global and local society.
Area Studies on Southeast Asia	Wataru KUSAKA <i>kusaka</i> <i>@tufs.ac.jp</i>	Wataru Kusaka specializes in Southeast Asian area studies focusing on the Philippines, based on political science and cultural anthropology. In order to tackle various issues surrounding sustainability, it is indispensable to gain an intrinsic understanding of what is happening on the ground, how local people understand the issues surrounding them, and what meaning they give to their own actions. In the lectures and seminars, students will learn how to understand a wide range of political processes (domination, resistance, and competition over the definition of values and the allocation of resources) from “below,” based on the reality of grassroots people, through methodologies such as field research and ethnography.
Area Studies	Bunpei TOJO <i>tojo.b21@</i> <i>tufs.ac.jp</i>	Bunpei Tojo specializes in Bengali regional studies, geography, and geographic information systems (GIS). His research encompasses land cover and land use changes, forest conservation, public health, and spatial epidemiology, particularly focusing on the surveillance of tropical infectious diseases, with South and Southeast Asia as key research regions. In the

Global Studies	<p>Shu HIRATA</p> <p><i>shushu68</i> <i>@tufs.ac.jp</i></p>	<p>courses and seminars he offers, a strong emphasis is placed on equipping students with the knowledge and skills needed to address social and environmental challenges through the perspectives of regional studies and applied geography. Students learn to comprehensively analyze natural and social environments, conduct critical evaluations, and design coherent plans and proposals to resolve regional issues. Centered around the theme of “development and environmental conservation,” the program integrates fieldwork-based regional research with GIS, statistical analysis, and other geographic methods to enhance students’ analytical capabilities. Moreover, the program actively promotes problem-solving research that incorporates local residents’ perspectives, fostering the ability to apply academic findings to practical and societal contexts.</p> <p>Shu Hirata specializes in the European history of ideas—focused on France—with a particular emphasis on in urban and spatial theories. In this course, he takes the interplay between urbanization and globalization as a starting point. He will discuss how globalization not only brings changes between nation-states but also produces domestic geographical inequalities through competition among municipalities, and how urbanization now extends beyond the geographical boundaries of cities and impacts various hinterlands, including rural areas, forests, oceans, and wilderness or other undeveloped regions. By critically rethinking existing modes and histories of urbanization together with students, he seeks to envision alternative ways of urbanizing that can inspire a new future for our cities, nations, and the international community.</p>
----------------	---	---

Tokyo University of Agriculture and Technology

Field of Study	Name	Research Contents
Plant production science	<p>Takuya BAN</p> <p><i>tban</i> <i>@cc.tuat.ac.jp</i></p>	<p>Multiple factors influence crop growth processes with varying intensities. Furthermore, even for the same factor, crop responses differ significantly depending on the growth stage. Therefore, to sustainably continue crop production, it is necessary to understand the complex control mechanisms governing crop growth and establish new cultivation methods based on these findings. Our laboratory conducts research in tropical (Southeast Asia), arid (Republic of Uzbekistan, Ningxia Hui Autonomous Region of the People's Republic of China, etc.), and temperate (domestic) regions. Among the crops cultivated in these areas, we focus particularly on fruit trees. By examining and comparing the relationship between the growth of these crops and internal and external factors, we aim to develop new cultivation methods that achieve high yields and high quality.</p>
BiomedicalEngineering	<p>Terumasa ITO</p> <p><i>teru-ito</i> <i>@cc.tuat.ac.jp</i></p> <p>★Kazuhiko MISAWA</p> <p><i>kmisawa</i> <i>@cc.tuat.ac.jp</i></p>	<p>To ensure the well-being and safety of individuals and communities, advances and innovations in medical technology and improvements in the quality of life are highly demanded. To create new technology that meets these demands, it is important to have close interdisciplinary collaboration between engineering fields that support electronics and information technology and life science fields such as medicine, pharmacy, and agriculture. Based on the technologies of ultrafast optics and molecular spectroscopy, we do seamless R&D projects from basic research to applied research in biomedical engineering and their practical implementations. We believe that our technologies will revolutionize next-generation medical diagnosis, drug discovery, and food science, leading to the creation of new industrial fields.</p> <p>Sustainability research is extremely important in creating innovations based on advanced science and technology. From basic to applied research and practical implementation, sustainability research emphasizes not only environmental compatibility but also social significance and cultural value, as well as economic viability. In this laboratory, we are mainly focusing on biomedical systems, examining industrial applications that combine scientific originality and industrial innovation and validating their sustainability upon social implementation. We promote both natural and social scientific research aimed at visualizing and disseminating the concept of sustainability in scientific and technological innovation to global society.</p>

Energy Science	<p>★Hiroko KATORI</p> <p><i>h-katori@cc.tuat.ac.jp</i></p>	<p>It is necessary to explore complex issues such as securing energy resources and conserving the environment from the perspective of comprehensive fields, not just the field of engineering. Also, in order to propose new technology that leads to the creation of new industries, we need to break down these complicated problems into each element (systems approach) and look at them from a broad angle. The method to clarify the mechanism of the phase transitions in magnetic materials is similar to the method to solve complicated problems related to energy. To realize a sustainable society using the knowledge of magnetic materials and the research methods acquired from the magnetic phase transition study, we will work on energy-related issues. Topics discussed in classes include “Proposal of energy problem-solving methods using new principles,” “Realization of energy conversion technology using new methods,” and “Development of energy-efficient and environment-friendly production process.”</p>
Biological Resources Functional Chemistry	<p>★Yoshihiro NOMURA</p> <p><i>ny318@cc.tuat.ac.jp</i></p>	<p>A high value-added strategy that capitalizes on the use of biological functionality of agricultural products will play an important role in contributing to agricultural development and increases in farm income. Also, the promotion of an effective use of the unused biological parts that used to be discarded is considered another possible strategy to raise farm income. These development strategies are assumed to work effectively in developing countries because they are endowed with abundant biological resources.</p> <p>Given the needs of developing countries in modern society, we conduct advanced research for the development of new applications by utilizing unused biological resources and reusing the used biological resources. Students are required to conduct their research relying on the chemical analysis of functional elements in agricultural and fishery resources and further identifying challenges and finding solutions for new product innovation by capitalizing on specific biological functionality.</p>
Business Administration / New Business Development Strategy, Innovation Management	<p>Hideki HAYASHIDA</p> <p><i>hideki-hayashida@go.tuat.ac.jp</i></p>	<p>Companies must strive for long-term sustainable business operations by balancing the three dimensions of environmental, social, and economic (ESG) considerations. By prioritizing sustainability, companies can achieve numerous advantages, including enhanced corporate value, increased support from investors and consumers, and improved risk management. To effectively implement sustainability, it is essential to engage in innovative activities that balance short-term profits with a long-term perspective. Our laboratory conducts research on innovation activities within the realms of research and development (R&D) and new business development management, which are pivotal drivers of sustainable growth. Our research endeavors focus on the development of analytical tools for innovation activities, evaluation methodologies, and pattern analysis of evolutionary management strategies, all of which are grounded in academic insights and practical experience from industry and real-world business environments.</p>

The University of Electro-Communications

Field of Study	Name	Research Contents
Social Systems Engineering	<p>Kayoko YAMAMOTO</p> <p><i>kayoko.yamamoto@uec.ac.jp</i></p>	<p>One of the critical global goals is to create and maintain a safe and prosperous society, and it is urgent to achieve resource development on a global scale and to solve environmental problems such as abnormal climate and disasters in both developed and developing countries. In order to tackle such issues, it is necessary to develop methods that can utilize a wide variety of information and design a new social system to achieve global goals. To that end, it is essential to learn various kinds of analytical methods that are capable of processing big data for the analysis of survey results, including geospatial information, mathematical models, algorithms, computer technology, and statistical techniques. By taking a new approach, we will aim to solve global issues and contribute to creating a safe and secure society.</p>
Computer Science, Informatics/ Telecommunications Engineering	<p>Tomonori HASHIYAMA</p> <p><i>hashiyama.tomonori@uec.ac.jp</i></p>	<p>The development of computer and network technologies has enhanced the quality of our daily life. Various kinds of interconnected electronic devices will be an important part of the prospective society called “society 5.0.” The aim of our research projects includes further development of Artificial Intelligence to enable human intelligence to acquire a better understanding of the connected world.</p> <p>Keywords: Intelligent Systems, Human-Computer-Interaction, Society 5.0, Artificial Intelligence, Machine Learning, Internet of Things</p>

Measurement /Control Engineering	<p>Hiroshi YOKOI</p> <p><i>yokoi</i> <i>@mce.uec.ac.jp</i></p>	<p>It is inevitable to solve a broad range of problems caused by ageing and poverty and create a comfortable living environment for every one of us. High-performance intelligent functions and automation based on the development of mechatronics, medical engineering, and measurement/control technology are rapidly being developed and further enhanced in the areas of transportation, aerospace, medical care, and various other fields. Measurement and control technology emerged from transverse engineering. It is structured by input, output, and functions of objectives and enables us to grasp (analyze, recognize, and optimize) the connection of objectives as a system.</p>
		<p>In order to respond to the needs of modern society, we offer research and education opportunities in mechatronics and medical engineering. This enables the students to systematically understand human characteristics and functions such as sensation/perception and movement.</p> <p>We will aim to create a society in which robots and human beings live in harmony and improve and support the lives of elderly and physically challenged people.</p>
	<p>★Yo ISHIGAKI</p> <p><i>ishigaki</i> <i>@uec.ac.jp</i></p>	<p>With increasing global concerns about environmental health and safety, there is a growing need for solutions that make invisible environmental risks visible and understandable to diverse populations worldwide. Based on the philosophy of "Design for Humanity," our research focuses on two main areas: environmental measurement systems (for ionizing radiation, PM2.5, CO2, and VOCs) and medical device development, notably the Occlu-pad for amblyopia treatment. Beyond academic research, we emphasize practical implementation, successfully conducting international clinical trials in India, Uzbekistan, Armenia, Vietnam, Kenya, Rwanda, and Myanmar, and transforming research outcomes into global products and services. Our methodology emphasizes direct field research and collaborative design with stakeholders, combining existing technologies in innovative ways to create cost-effective solutions accessible to underserved populations.</p>
Robotics	<p>Yinlai JIANG</p> <p><i>jiang.yinlai</i> <i>@uec.ac.jp</i></p>	<p>Robotics is an interdisciplinary area that involves not only engineering technologies such as mechanics, electronics, and artificial intelligence, but also human science such as physiology, psychology, and neuroscience. It is expected to be an essential technology to realize the sustainable development of human society by providing labor, care, service, and even companionship.</p> <p>The mission of our lab is to facilitate the communication, interaction, and integration between human and robot. We are developing rehabilitation robots to substitute or restore body functions, human assistive robots to provide care to physically challenged people, and human robot interfaces to improve the usability of robots.</p>

履歴書/Resume

学歴/Academic Background					
区分 Level of Education	学校名・所在地 (市区町村、国) Name of School and Location (City, Country)	その学校の修業年限 Officially Required Years for Graduation	入学年月及び卒業年月 Year and Month of School Entrance and Graduation	主な使用言語 ※「主な使用言語」とは教育を受け る際使用した言語をいう。 Medium of Instruction "Medium of Instruction" refers to the language used to teach in class.	学位 Degree
[高等学校/ Upper Secondary] High School	[学校名/Name of School]	years 年制	YYYY 年 MM 月 入学 Entered	/	/
	[所在地/Location (City, Country)]		YYYY 年 MM 月 卒業 Graduated		
[高等教育/ Bachelor's Degree] 大学 University	[学校名/Name of School]	years 年制	YYYY 年 MM 月 入学 Entered	/	/
	[所在地/Location (City, Country)]		YYYY 年 MM 月 卒業 Graduated		
[高等教育/ Master's Degree] 大学院 Graduate School	[学校名/Name of School]	years 年制	YYYY 年 MM 月 入学 Entered	/	/
	[所在地/Location (City, Country)]		YYYY 年 MM 月 修了 Completed		
以上を通算した全学校教育就学年数 Total Years of Officially Required Years for Graduation		years 年制			
出願資格に関係しない学歴/Other Academic Background					
[高等教育/ BA, MA Degree] 大学・大学院等 University, Graduate School, etc.	[学校名/Name of School]	years 年制	YYYY 年 MM 月 入学 Entered	/	/
	[所在地/Location (City, Country)]		YYYY 年 MM 月 修了 Completed		
研究生等 Research Student, etc.	[学校名/Name of School]		YYYY 年 MM 月 入学 Entered	/	/
	[所在地/Location (City, Country)]		YYYY 年 MM 月 修了 Completed		
職歴/Professional Background (Employment History)					
年月/Year and Month		事項/Describe the details of employment.			
YYYY 年 MM 月 ~ YYYY 年 MM 月					
YYYY 年 MM 月 ~ YYYY 年 MM 月					
【留学生のみ】日本語学習歴/Educational Background of Japanese Language (if any)					
年月/Year and Month		事項/Describe the details of Japanese education.			
YYYY 年 MM 月 ~ YYYY 年 MM 月					
YYYY 年 MM 月 ~ YYYY 年 MM 月					

検定料の「振込金受付証明書」又は「領収書」の貼付欄

Paste a proof of application fee payment or a receipt here.

【注意事項】

1) 合格通知を受け取ることが出来る、日本国内の住所・郵便番号・受領者氏名(代理人の場合は、志願者氏名をかっこ書きで併記)を記入すること。

Write down your postal code, address (within Japan), and name where we can ensure the delivery of various documents, including a Notice of Acceptance. If you reside outside Japan, designate a representative who resides in Japan, write your representative's mailing address and name, and write your name in parentheses alongside the representative's name.

2) 3 か所全てに同じ郵便番号・住所・氏名を記入すること。/Fill out all three labels. Make sure to write the same mailing address and name(s).

3) 受験番号欄には記入しないこと。/Leave the section, Application Number, blank.

あて名票	お届け先 To	おところ：〒 - Address	
		おなまえ： Name	受験番号（※記載不要） Application Number
		電話番号： Telephone Number	
	ご依頼主 From	〒 - 電話番号：	
	品名	書類 (Documents)	
あて名票	お届け先 To	おところ：〒 - Address	
		おなまえ： Name	受験番号（※記載不要） Application Number
		電話番号： Telephone Number	
	ご依頼主 From	〒 - 電話番号：	
	品名	書類 (Documents)	
あて名票	お届け先 To	おところ：〒 - Address	
		おなまえ： Name	受験番号（※記載不要） Application Number
		電話番号： Telephone Number	
	ご依頼主 From	〒 - 電話番号：	
	品名	書類 (Documents)	

【 2026年10月入学 ・ 2027年4月入学 】

[2026 October ・ 2027 April] Admission

博士後期課程 共同サステイナビリティ研究専攻
【 受 験 票 】

Joint Doctoral Program for Sustainability Research [Examination Admission Card]

受験番号 Application Number	※大学記入欄/Leave blank.
----------------------------	---------------------

志望大学名 University applying for	
フリガナ/Name in Katakana	
氏 名 Name in Kanji or English	

写真貼付欄
Paste a Photo.
(4cm × 3cm)

志願票と同じ
写真を貼ること
Use the same photograph
pasted on the Application
Form

(注)学力検査当日は、必ず受験票を持参すること。また、郵送で出願した者は、あて名票を使用し受験票を返送するので注意すること。
Bring this card to the examination. If you are submitting your application by post, you will receive this card to the Japanese address indicated on your Address Labels.

【 2026年10月入学 ・ 2027年4月入学 】

[2026 October ・ 2027 April] Admission

博士後期課程 共同サステイナビリティ研究専攻
【 写 真 票 】

Joint Doctoral Program for Sustainability Research [Photograph Card]

受験番号 Application Number	※大学記入欄/Leave blank.
----------------------------	---------------------

志望大学名 University applying for	
フリガナ/Name in Katakana	
氏 名 Name in Kanji or English	

写真貼付欄
Paste a Photo.
(4cm × 3cm)

志願票と同じ
写真を貼ること
Use the same photograph
pasted on the Application
Form

Request Form for Eligibility Check
出願資格認定申請書

YYYY 年 MM 月 DD 日

↓ Place a check mark.

- () Dear the President of TUFS
東京外国語大学長
() Dear the President of TUAT
東京農工大学長 殿
() Dear the President of UEC
電気通信大学長

Katakana
(カタカナ)

Name
氏名

Stamp/Sign
印

Date of Birth
生年月日

YYYY
年

MM
月

DD
日 (

years old
歳)

Current Address
現住所

大学院博士後期課程共同サステイナビリティ研究専攻の出願資格認定を受けたいので、必要書類を添えて申請します。

I would like to request an eligibility check to apply for the Joint Doctoral Program for Sustainability Research. Please find attached required documents.

Joint Doctoral Program

This form is only for those applying under 2. Eligibility (6) or (7).

《2. 出願資格(6)(7)該当者のみ》

(博士後期課程)

大学院博士後期課程入学試験出願資格認定審査調書
Eligibility Check Form

志望専攻 Name of Program	専攻	受付番号 Application Number	※大学記入欄/Leave blank.
Katakana フリガナ 氏名 Name in Kanji or English	Male 男・Female 女	生年月日 Date of Birth	YYYY年 M.M月 D.D日 (years old 歳)
現住所 Current Address	〒 ー E-mail 電話/TEL ()		
YYYY年 MM月	学歴 (すべての学歴を記入) /Academic Background		
YYYY年 MM月	職歴/Professional Background		
YYYY年 MM月	研究活動・取得資格・留学経験等その他特記事項 Other Background (research activities, qualifications, study abroad experience, etc.)		